特集すいよう

米国 労働運動 力強く

タイムズ・スクエアに集まるデモ参加者たち＝2022年9月5日、ニューヨーク（写真はすべて石黒みずほ撮影）

人員増を求めてストライキを行う看護師＝6月27日、テキサス州オースティン

米国では近年、既存の労働組合と新たに生まれた国民運動が連携して労働運動を発展させてきました。反労組で有名な大企業で労組を結成するなど突破口を切り開いています。（ワシントン＝石黒みずほ、島田峰隆）

きっかけになったのがニューヨークのウォール街（金融街）で2011年に始まったオキュパイ（占拠）運動です。「1%の富裕層でなく99%の声を聞け」という訴えは全米に広がりました。

翌12年にはニューヨークでファストフード労働者が最低賃金の時給15ドルへの引き上げを求めて行動。全米規模の団体が誕生し、サービス業国際労組（SEIU）や米労働総同盟産別会議（AFL・CIO）が運動を支援しました。

この運動は地方自治体レベルで最賃引き上げを勝ち取りました。また労働組合の必要性を浮き彫りにし、各地の職場で結成のうねりをつくり出しています。

21年12月には大手コーヒーショップのスターバックスで初の労組を結成。22年4月にはインターネット通販最大手アマゾンのニューヨーク市スタテン島の集配所で初の労組が結成されました。

現在も、さまざまな分野で労働者のたたかいが力強く繰り広げられています。

大企業で労組結成

この職業の存続かけて

脚本家

ハリウッドの脚本家ら1万人を代表する全米脚本家組合（WGA）は、労働条件の改善などを求め15年ぶりにストライキに立ち上がりました。3カ月目に突入しています。

「仕事がない期間に節約を強いられ、家賃どころか生活必需品を購入することも困難だ」。テレビ番組の脚本家アンドレア・ソーントン・ポールデンさん（35）は言います。

ポールデンさん@ロサンゼルス

ハリウッドの脚本家ら1万人を代表する全米脚本家組合（WGA）は、労働条件の改善などを求め15年ぶりにストライキに立ち上がりました。3カ月目に突入しています。

「仕事がない期間に節約を強いられ、家賃どころか生活必需品を購入することも困難だ」。テレビ番組の脚本家アンドレア・ソーントン・ポールデンさん（35）は言います。

WGAは、雇用期間の長期化や再使用料の見直し、AI（人工知能）の規制などを要求しています。ポールデンさんは「脚本家の仕事は『ギグワーク』ではなく、生涯にわたる専門職。10、20年後にもこの職業を存続させるためにたたかう」と力を込めました。

必要なケア提供できず

看護師

テキサス州オースティンでは、アセンション・セトン医療センターで働く看護師らが、安全な人員配置を求めて同州史上最大の看護師ストを行いました。

人員削減によりひっ迫していた現場を、新型コロナウイルスのパンデミックがさらに追い打ちをかけました。

集中治療室（ICU）の看護師アレクシス・セアーズさん（30）は「いつも走り回り、患者一人一人に寄り添い必要なケアを提供することができなくなった」と悔しさをにじませます。

「困難で苦しい状況にある人たちを元気づけることができる」とやりがいを感じてきたセアーズさん。経営者に対し、「企業の利益ではなく、患者を守るという医療の本来の目的に立ち返ってほしい」と語りました。

セアーズさん@オースティン

多くの人の利益のため

UPS配送員

米小荷物輸送最大手ユナイテッド・パーセル・サービス（UPS）の配送員らは労働環境の改善などを求め交渉を進めています。新契約が合意に至らない場合、約34万人がストに入ります。

ニューヨーク州で働くマット・ライチンガーさん（27）は、10時間以上に及ぶ勤務や業務遂行の確認として管理職が後をつけ撮影するなどのハラスメントも横行していると告発。「会社は労働者を休むことなく働かせ、自らの利益を増やすために労働者を搾取している」と憤ります。

「労働者は大多数であり、僕たちがいなければ会社は回らない。より多くの人々の利益のためのたたかいだ」

ライチンガーさん@ニューヨーク

レイアウト　齊藤和音